

青森公立大学 国際芸術センター青森 アーティスト・イン・レジデンス 2012
「Storyteller」 招聘アーティスト決定！

青森公立大学国際芸術センター青森では、開館以来国内外からアーティストを招へいするアーティスト・イン・レジデンスを年2回、春の指名制と秋の公募制で開催してきました。今年で10回目となります秋のアーティスト・イン・レジデンス・プログラムは、「Storyteller（ストーリーテラー）」と題し、下記要領で実施します。

■ 参加アーティスト

青山 悟（あおやま・さとる）／東京
北川 貴好（きたがわ・たかよし）／大阪出身、東京在住
Lotte LYON（ロッテ・ライオン）／オーストリア
YU Cheng-Ta（ユ・チェンタ）／台湾

■ 主なプログラムスケジュール

アーティスト滞在 9月10日（月）～12月21日（金）
展覧会 11月3日（土・祝）～12月16日（日）午前10時～午後6時 入場無料
オープニングアーティストトーク 11月3日（土・祝）午後2時30分～4時30分

■ 事業目的

アーティスト・イン・レジデンス（AIR）プログラムでは、現在、さまざまな芸術の分野で活躍するアーティストを招聘し、期間中の滞在創作を支援するとともに、展覧会、ワークショップ、レクチャーなどの開催により、来館者にさまざまな芸術体験を促すこと、および芸術を通じた交流推進の一助となることを目的としています。したがって、このAIRプログラムは、アーティストへの制作支援を行うだけでなく、アーティストによる地域住民や学生への芸術を通じた教育活動を行うことも目的としています。参加アーティストは9月上旬からACACに滞在し、11月3日から12月16日の間に開催される展覧会に向けての作品制作やリサーチのほか、ワークショップやレクチャーといった様々な交流プログラムを実施します。

■ プログラム・テーマ 「Storyteller」

青森公立大学国際芸術センター青森では、2012年度のテーマを「物語／Storytelling」とし、アーティスト・イン・レジデンス事業を実施してまいりました。人類はいたるところで象徴を見出し、世界の様々な出来事や真理は、一定の時間と空間の中で秩序立てられた「物語」として表されてきました。様々なメディアによって無数の物語が生まれている現代においてもそれは変わりません。人々は数多ある物語の中から自分が共有できる物語を見つけ出し、それを自身の物語と重ねることで自らの感情や思考を理解し、それを語ることで自己認識をしてきたのではないのでしょうか。

芸術作品における「物語」とはどのようなものなのでしょうか。ある象徴的な物語を作品の背景に持つことでしょうか、それともある秩序とその連続的な展開を持つことでしょうか。いずれにせよ作品がある種の物語性を持つ時、アーティストの活動はそれ自体が物語と世界をつなぐ媒介となるのではないのでしょうか。2012年の秋AIRでは、アーティストの作品とその活動を「物語」という切り口から考えていきます。

参加アーティスト

■ Lotte LYON (ロッテ・ライオン)

1970年オーストリア生まれ、現在オーストリア、ウィーン在住。彫刻、写真、ドローイングによるインスタレーション作品を制作。ミニマルアートを参照する一方で、日常的な経験やオブジェから着想を得る。近年は展示される空間の特性を強く意識した、色彩とパターンを用いたウォール・ペインティングのような作品を制作している。



《Wall painting》2012年



《Souterrain》2012年

■ YU Cheng-Ta (ユ・チェンタ)

1983年台湾生まれ、台湾在住。他者と自分、あるいはある主題とその他のものとの間の距離や関係性を再考し、文化、言語、アイデンティティの内側にあるかもしれない微妙な裂け目やずれに着目する作品を手掛ける。台北ビエンナーレ(2010年)、第53回ベネチア・ビエンナーレ台湾パビリオン(2009年)ほか。



《Keywords about Living Room》2012年



《Exploding Taiwan》2011年

■ 青山 悟 (あおやま・さとる)

1973年東京生まれ、東京在住。ミシン刺繍による作品、映像インスタレーション作品を制作。今回は青森の伝統工芸であるこぎん刺しおよびその文様を調査し、現代と伝統、テクノロジーと社会環境への考察を試みる予定。「メグロアドレス—都会に生きる作家」目黒区美術館(2012年)、「六本木クロッシング2010年展：芸術は可能か？」森美術館(2010年)ほか。



《Death Song》(部分：Musica score 1) 2012年
ポリエステルにメタリック糸と黒糸で刺繍
写真提供：目黒区美術館



《政治家とひなげし (ラガルド)》2010年
ポリエステルにメタリック糸と黒糸で刺繍

■ 北川 貴好 (きたがわ・たかよし)

1974年大阪生まれ、東京在住。建物や環境そのものに手を加えることで作品を作ってきた。近年はフロアランドスケープとして室内に地層な床下が広がる作品を制作を予定。「北川貴好 フロアランドスケープ 開き、つないで、閉じていく」アサヒアートスクエア(2011年)、「あいちトリエンナーレ」(2010年)ほか。



《フロアランドスケープ》2012年
アサヒアートスクエア/東京



《アカリノラウンジ 長者町の光》2010年
あいちトリエンナーレ/愛知